

第33回 総会・懇親会

歌って・踊って・また歌って!!



大分県立竹田高等学校
関 東 同 窓 会 報
第 58 号

発行者・会 長 菅 博敏
編集者・委員長 衛藤 淳
発行所・関東同窓会事務局
〒194-0013
東京都町田市原町田4-17-20
電 話 042-725-5018

<http://kantoutaketa.org/>



当番幹事
金子 知美
(昭53年卒)

令和元年6月29日、第33回竹田高校関東同窓会が、東京プリンスホテルにて開催されました。来賓13名、恩師・高山誠一先生、同窓生247名が出席。

総会では、菅博敏会長のごあいさつに始まり、最年長者の布施泰義さん、最年少の学生・須藤拓世さん、神田康太郎さんのお名前の発表がありました。

総会ではご来賓を代表して竹田高校校長の木戸孝明先生より竹田高校の近況報告とごあいさつがありました。竹田市長・首藤勝次市長におかれましては、当日、大分空港よりの航空便が悪天候のため出発できず、代理の池永徹氏(昭53年卒)により祝辞が披露されました。

そして、総会から懇親会への



関東同窓会・菅博敏会長

幕開けへ。

昭63年卒の川辺浩克さん、肥田雅子さんの歯切れの良い司会、特に川辺さんの声が大き

く、司会向きでした。

イベントの始まりは、我が昭53年卒の銀河の歌姫、倉原佳子さんによるオペラ。声は会場に響き渡り、全体を包み込むようでした。劇場大ホール並みのスケールに拍手喝さいが沸き起こっていききました。ありがとうございました。

次に、Bamboo Shoot(バン



木戸孝明・竹田高校校長



竹田市・池永徹氏
(昭53年卒・首藤市長代理)

ブーシュート)・渡部桂子さんによるダンス。バブル時代のデイスコソングに乗り還暦間近とは思えないほどの若者顔負けのダンス、10分間は初挑戦だったとのこと。

最後に、竹田から駆けつけてくれた3人組のフォークソンググループ TAKE-out(テイクアウト)。懐かしい、かぐや姫全盛時代を想います。

そして次期幹事の引き継ぎ、校歌斉唱、ストームで終えました。

昨年から半年、役員の方々と走り続けた昭63年卒、昭53年卒でした。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私は転勤族の親により、高一より数年を久住で過ごしました。学校も入学から卒業までを



運営に当たった役員と当番幹事(昭53年卒・昭63年卒)

過ごした地は久住が初めてでした。昨年昭53年卒同窓会があり、訪れた久住は、高校時代の夢に描いた場所に代わっていました。この年齢に至り、恩師、先輩の方々に、また、自然に豊かに生きる意味を知らされ、有難さをかみしめる自分が在りました。



服部眞二・竹田高校同窓会長



司会の肥田雅子さん・川辺浩克さん
(昭63年卒)



竹田から参加の土居昌弘
大分県議 (昭63年卒)



Bamboo Shoot・渡部桂子さん
(昭53年卒) のダンスパフォーマンス



声楽家・倉原佳子さんの熱唱に
場内は息を呑んだ

第33回 総会・懇親会アルバム

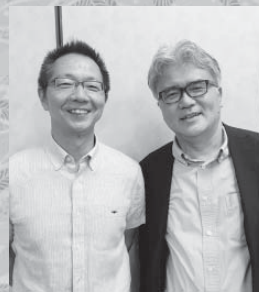
＊ 撮影：干潟健夫さん(当番幹事・竹田より参加・昭53年卒)、渡辺 隆さん(関東同窓会・昭53年卒) ＊



竹田から駆けつけてくれた
フォークソンググループ「TAKE-out」



総会の司会・都俊生幹事長



撮影担当の
干潟健夫さんと渡辺隆さん



来年・令和2年の当番幹事の皆さん
(昭44年卒、54年卒)



平成28年頃(?)。
どの期の同窓会だったか不明ですが、あいさつの時のもの



7期生の同窓会にて(昭和45年頃?)

阿南 豊	☐	大塚定徳	☐
末田 一郎	☐	日高 伝	☐
北条 威一	☐	山口 真一	☐
後藤 是美	☐	羽田野利治	☐
大津省吾	☐	牧野 衛	☐
	☐	吉良達郎	☐
	☐	黒野聡生	☐
	☐	足穂正人	☐
	☐	田北和義	☐
	☐	相馬健男	☐
	☐	古庄尚人	☐
	☐	谷川韓生	☐
	☐	小河忠士	☐
	☐	阿南都元	☐
	☐	佐藤孝一	☐
	☐	後藤正貞	☐
	☐	大河原直	☐
	☐	阿南正直	☐
	☐	平手光雄	☐
	☐	佐藤義士	☐
	☐	森田顕治	☐
	☐	木許 博	☐
	☐	首藤宗利	☐
	☐		☐
	☐		☐
	☐		☐



昭和26年頃、在職者。当時の校長は大久保静平先生だったと思います

恩師からの便り

田北 和義 先生

関東同窓会の皆さま「こんにちは！」

関東同窓会とは設立当時から深く関わってきました。昭和53年ごろ、私は同窓会の組織強化と会員相互の親睦、交流を盛んにする事を担当しておりました。日本の首都の東京に同窓会がありませんでした。当時、東芝EMIの社長であられた高宮昇先輩を尋ね、創立のためにご尽力をお願いしました。戦後、東芝再建のために土光会長の下、敏腕を振るわれた高宮先輩をお願いいたしました。

その10年後、産声をあげる事ができました。開設に当たってはいろいろと問題があったことでありましたが、二代目の後藤鉄石先生、三代目の伊東七五三先生と年々組織が確立し、かつすばらしい運営は他の範となり、見学者が来るほどの隆盛をとげたのであります。矢嶋三義(昭和4年卒)、加藤郷

一(昭和5年卒)、池松武之亮(昭和5年卒)の諸先輩にもお世話になりました。

わけでも宮崎貞光大先輩(大正14年卒)には、物心両面に亘って長くご支援ご協力を得たことは忘れることはできません。帝国ホテル店ほか数店の宝石店を運営され、多額納税者としても有名で大成をおさめられた方なのに、毎日、地下鉄で大塚から銀座まで通勤されたそう、頭の下がる思いで一杯です。

背をピンと張って大股で歩く、慈願にみちた宮崎先輩は憧れの的でした。

さて、私は敗戦後の昭和21年3月に旧

制竹田中学教諭を拝命したのですが、傍系出身、ピンチヒッターのつもりで教師になりました。なのに、本職を忘れて40年間も教壇に立つことになったのは、すばらしい沢山の生徒たちに出

会ったからです。しかし若気の至りで大過小過の連続で申し訳なく思っています。

敗戦後の日本は人心荒れていました。竹田には藩校時代からの陽明学を柱とする教育哲学があり、健全な教育風土はたくさんすぐれた人材を輩出してきました。そして後輩を誘掖し育ててくれた多くの先輩たちがおられました。この流れは今も竹田高校に脈々と流れていると思います。

私は竹田高校に教師として25年間、同窓会長として20年間も関わってきたことは私の財産であり誇りでもあります。古い歴史、香しい文化、麗しい自然、濃やかな人情に溢れる郷土竹田がいつまでも繁栄し、関東同窓会が益々隆昌発展されますことを心から願っております。

馬齢を重ねて93歳になりました。私を知らない方も多々いますので、昔の生徒がつけた私の綽名は「ボン」であります。何か? どこか? 足りない人間を髣髴させるとありますが、そんな私であります。今後ともよろしく! 拙文恐縮! 皆さまのご多幸を祈っています。

(令和元年6月6日)



クラス会・同期会

昭和52年卒・ 還暦同窓会

鶴井 浩司（昭52年卒）

令和元年5月9日午後、別府は好天に恵まれ爽やかな風が吹き抜けていた。

駅前のバス乗場で待つこと数十分、ひとり二人、見覚えのある顔が近づいて来た。向こうもこっちが気になるようだ。「よお、久しぶり」40年以上たつのに、風貌もけっこう変わって（こちらは特に）いるにも関



わらず覚えていたものだ。でも名前が出てこない。まあいい、会場に着けば名札もつけるだろうから、それからでも遅くはない。待ち合わせの時刻になる頃には十人以上の団体になった。

中には恩師である高山先生がいる。先生は東京での集まりにも良く来ていただいた。高校生当時は大人と子供の差があったのに、今ではその差がずいぶんと縮まったことを感じさせてくれる。たぶん、先生もそう思っていることだろう。バスは10分ほどでホテルパストラルに着いた。

落ち着いた感じの建物、ここで還暦の同窓会が開催される。まず受付に向かう。同窓会には何度か参加したが、いつも受付をするこの瞬間が一番心昂るし緊張するのは自分だけだろうか。会いたいと思うあいつは、あの娘は来ているのだろうか？名札と資料をもらって指定の席に座る。

やがて開始時刻となり、この日集まったのは90名ほど、同窓生としては300名あまりいたのだが良く集まったものだ。会に先立ってみんなで記念写真を撮ることになったのだが、事務局の趣向で記念の赤いタオルを首に掛けるよう指示された。いやでも還暦を思い起こさせる演

出だな、いやむしろA猪木のオマージュか。こんな大勢でカメラに収まるのは同窓会くらいになつていくのかと思うと寂しくもある。

撮影が終わってざわつく一団は急かされながら席についた。さあ始まる。まずは物故者への黙祷、十人近くの名前が読み上げられた。お前ら早すぎるぞ。何人かが挨拶し、その後歓談し、飲んで、歌った。あつという間だ。夢を見ているようだ。そう言えば十六の夏、キャンプで一緒に歌った歌を君はまだ覚えていたか？ 気がつけば多くが席を移動し、写真を撮り合ったりメールを交換している。そんな中、司会者は喧騒を抑え込むように3年後の再会を宣言して宴は幕を閉じた。心残りはあったが二次会を遠慮して会場を後にした。外はまだ明るかった。

『一生の楽しきころのソーダ水』という句がある。あの頃、僕たちはまちががなく、この句が描き出す映像の中にいた。そして四十数年が過ぎた今、僕たちはこのフレームの外から昔を懐かしんだり、今の若者を眩しく見つめたりしている。時が過ぎ、古い記憶は化石となつてしまつていても、掘り出してくれる誰かがきつと待っている。その誰かに出会うために、友よ、また会おう。

令和元年の関西同窓会

田部 修士（昭42年卒）

10月5日（土）、開演を待ちきれずに早くから多くの仲間が大阪駅前丸ビルの6階会場モナークに集まりました。定刻の12時になって首藤副会長より開会宣言がされて総会が始まった。今年の出席者は80名。

始めに本田会長より、「昨年母校は120周年を迎えて卒業生も2万9千人程になるそうで、関東も関西も多くの卒業生が活躍している。仲間の協力を得て同窓会発展存続のために努力します」と力強い挨拶があった。

続いて来賓として工藤哲郎教育総務課長が登壇され竹田市長の代理として挨拶された。

・お城ブームで竹田市としても歴史資料館の来年の改築を目指している。

・中九州自動車道の工事進行状況等々近況報告と故郷納税の御礼が述べられた。

続いて、服部同窓会長は、「母校は来年から1クラス定員35名が認められ1学年4クラスとな



る。同窓会も竹田高校の発展を願って全国から学生の募集許可を得ている島根方式など現地を訪ねて研究している。またベトナム訪問では、現地大使館を訪ねて大使とも懇談の機会をいただき、学生にとっても貴重な体験



となった」と報告があった。
最後に木戸校長から、「関西同窓会では著にお金を挟まないといけないと思っていた」とウイットに富んだ挨拶。「地元はラグビーワールドカップで盛り上がり、大分市内の各所で渋滞が発生している。竹田高校は6年連続定員割れの状況ですが、全力を挙げて対策を行っている。」と挨拶され、今年も生徒の活躍の情報やたくさんの方の近況、資料をいただいた。続いて首藤事務局長から会務報告があり、合同の写真撮影の後、関東同窓会副会長の「関東、関西を併せて会への出席330名の仲間のご健勝と同窓会の発展を祈念して乾杯!」の発声で懇親会が始まった。

今回のイベントは、相愛大学・音楽学部音楽科声楽専攻で、特待生として卒業された(同窓会員と比較して)とても若いソプラノ歌手・田中西さんの演奏で盛り上がった。瀧廉太郎に因んで「花」、荒城の月」に始まりシューベルトの「鱒」、オペラ、英語バージョンの「翼をください」、命の唄(竹内まりや)等々に一同うつとり聞き惚れて、最後に全員で「ふるさと」を合唱してアンコールの嵐の中、別れを惜しんで会場を後にする田中さんに拍手は止まなかった。

しばし懇談の後、校歌斉唱とストームは最高潮に達し、最後に名古屋から参加の東海大分県人会・山本会長の万歳で閉会となった。その後も、ゴルフ会の案内もあり、来年、令和2年2月22日の豊後竹田会の案内も「2222」です。忘れないで」と報告があった。なお、来年の関西同窓会は10月3日(土)に開催の予定。



“瀧廉太郎記念音楽祭”が 第41回サントリー 地域文化賞に輝く!!

井手 得郎(昭41年卒)

昨春秋、竹田市は瀧廉太郎記念音楽祭の長年の功績により、第41回サントリー地域文化賞を受賞した。ANAインターコンチネンタルホテル東京で授賞式があった。

サントリー地域文化賞は、これまで全国各地で地域の文化向上に貢献した214件の個人や団体が表彰されている。

大分県では、県民オペラ協会、湯布院自然と文化のまちづくり、姫島車えび養殖、豊後高田昭和の町などが受賞している。今回の表彰式には、竹田市から首藤市長をはじめ、長年、地元で音楽祭を支えた田辺朋二先生やボランティアのみなさん、また関東からは竹田市東京事務所長の白坂亜紀さんら多数の関係者が参加した。

この音楽祭は戦後の復興の象徴として人々に夢と元気を与えようと1947年にスタートし、以来72年間休むことなく続いている。今では、音楽家をめざす高校生の間では「タキレン」の名で親しまれていて若手音楽家の登竜門となっている。

竹田高校関東同窓会の中にも、参加された人があるのではないだろうか。竹田市では「音楽のあ

授与される首藤市長



るまちづくり」をめざし、市民と行政が一体となって活動している。毎年10月の音楽祭開催中の3日間は市民ボランティアが手作りの郷土料理のふるまいや、外部からの来訪者の宿泊、送迎、観光案内などで活躍してコンクールを支えている。

18年のオーブニングの記念コンサートで来竹した、さだまさしさんが「竹田市に立派なホールができた。ホールは文化だ」といったグランツたけたで、今年も秋に瀧廉太郎記念音楽祭が予定されている。

この音楽祭が地域を越え、次世代に脈々とつながっていくことは郷里を思うとき嬉しい事だ。



同窓生
登 場アメリカ文化に触発されて、
人生哲学に開眼

綿貫 浩
(昭59年卒・剣道部)
勤務先：株式会社博報堂
プロダクツ

◎母校を卒業して早35年

私は竹田高校を卒業後、法政大学に進学し、東京でそのまま就職しました。その後、数回の転職を経て、現在は広告の仕事をしています。

広告と言っても業務領域は多岐にわたり、TVや新聞・雑誌等の広告制作から、PR発表会や展示会などのイベント、カタログ・チラシなどのツール制作、Webをはじめとするデジタル広告、個人情報を取り扱うDM制作など非常に幅広い業界です。そのため長時間労働を強いられ非常に多忙な日々を過ごしていました。最近はおきき方改革でかなり改善してきました。

◎ポリシーはいつもチャレンジ

我が人生において転換期となった35才のとき、一念発起し一年間アメリカへ留学（というか遊学の方が正しい？）しまし

た。そこでは家族や友人そして仕事との向き合い方について大きな衝撃を受けました。日本に居たら思いもしないようなアメリカ人の考え方を目の当たりにし、その後の私の人生に大きな影響を与えました。

おかげでアメリカ人のもつと自分を自由に表現しようという考え方に影響され、その第一歩として仕事や趣味等なんでも興味や関心事があればすぐにやってみようと思えるようになりました。だめだったらそこで止めればいい。やりたいと思ってるのにそれをやらないで後悔するのは、やってみて失敗した後悔よりももっと悔しい。私はそう信じています。このとりあえずやってみる思考は現在も実行しています。ちなみにアメリカ滞在中に9・11テロが発生して大変な思いもしました。

◎同級生との再会

そうして仕事に興味に打ち込んでいたころ、竹田高校卒業30年目の同窓会が竹田で行われることを知り出席しました。そこで関東同窓会のことも、この時初めて知りました。これをきっかけに東京や福岡・大分で積極

的に同級生と集まり情報交換をしました。久しぶりに再会した同級生や先輩後輩が様々な分野で活躍していることを知り、懐かしさや嬉しさと同時に誇らしさを感じました。そして関東同窓会に出席してみても「なんて幅広い世代が集まった組織なんだ！ ああ全ての方に話を聞いて回りたい」とも思いました。

◎同窓会組織に思うこと

関東同窓会に出席でき嬉しかったのです

が、同時に少し残念に思うことがあります。それはこれ程の歴史を持ち、数多くの卒業生を輩出しているにも関わらず、卒業後は個人的な付き合いだけでなくビジネスなどの繋がりが希薄であることです。もつと先輩は先輩を頼り、先輩は先輩をサポートしていくべきだと思います



仕事も趣味もいつでも全力！

す。またそのような場が必要と考えます。公式の同窓会が卒業30年後というのも、長すぎるため見直してはどうかと思っています。さらに全国各地の同窓会組織が卒業生にあまり知られていないのも問題です。例えば卒業式の際に同窓会組織の連絡先を卒業生に教え、先輩に相談できる環境を整えるのもよいかもしれません。

我々卒業生が今後いかに竹田高校を盛り上げていくかは、私たち自身にかかっていると思います。唯一それができるのは卒業生であり、またそれを実現することは卒業生の義務であり権利でもあるのです。

関東在住の
同窓生を
探しています

私たち関東同窓会では関東在住の同窓生を常に探しています。皆さんの友人、知人、親戚、先輩後輩など、竹田高校OBで、関東同窓会の会報誌である本誌『臥牛』が郵送されてきていない人は、会に登録されていない可能性があります。

その場合は、ぜひ一報ください。事務局より会報誌を郵送すると同時に会員として登録させていただきます。今後のご案内をさせていただきます。少子高齢化とともに、高校卒業後、関東地域に進学する後輩も大変少なくなっております。皆さまのご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】

竹田高校関東同窓会

組織委員長・高橋敏政

090・5173・3020

令和元年度竹田会

11月1日、恒例となったお茶

の水の東京ガーデンパレスホテル天空の間にて竹田会が開催されました。今年の参加者は98名。6時半に司会の阿南貴恵さんの声掛けで物故者への黙祷を一同で捧げ、続いて古庄幸一會長の「明るい竹田を」との元氣なご発声で会がスタートした。

来賓として竹田市長が登壇し、竹田の近況及び文化大使となられた赤神先生の紹介をされた。「因みに、初代の竹田市文化大使は櫻田啓さん、次が笹本玲於奈さん、今回『戦神』を出版され、来年には岡藩のキリシタン文化をテーマにした『はぐれ鴉』の連載を予定している赤神諒先生が三代目として大使になつていただいた」とご紹介が

あった。

続いて、今回初参加の三井銀行・右田理事(昭38年3月松本生れ)が登壇、「市長の後でやりづらいが」と言いながら今年2月9日の週刊現代で、伝説の支店長たちとして雑誌に掲載され今回の参加となった経緯等を報告された。

竹田市からの参加者のご紹介の後、満を持して衛藤征士郎先生が登壇され、「29歳で町長選に出馬した際に当時の佐久間市長が応援に来て、輝く竹田から燦る玖珠町に応援に来てやったの思い出があり、だんだん竹田が好きになっていった」との話と共に乾杯のご発声をいただいた。しばし歓談の後で、今年7月に舞踊で歌舞伎座デビューを果たされた若い首藤匠君に挨拶をいただいた。

最後に佐藤眞史さんのフルート演奏にあわせて一同「荒城の月」を合唱する段となったが、事務局の無謀なお願ひもあり、急遽首藤匠君に演奏に合わせて舞を披露いただくことになった。一同合唱の声も控えめればし踊りに見とれ、今年の竹田会は上品で格調高い雰囲気の中でお開きとなった。



竹田会・古庄幸一會長(昭40年卒)

令和元年の竹田会での 首藤匠さん(花柳美匠治郎)の挨拶



首藤匠さん

金のかかる事だからと、諦めてはいたものの、日本画の先生から「首藤くん藝大行こう!」という(先生も藝大の日本画を受験しながら入れなくて残念な思いをされた)熱意におされ、東京藝大を第1志望としました。

私は、竹田市内下本町・塩屋荒物店に生まれ育ちました。此度は竹田会の方々にお声がけをいただきありがとうございます。竹田を離れて4年目、現在東京藝術大学4年です。

幼少より日本の伝統文化が身近にあり、子供ながらに自然と興味を持つて6歳から和紙人形を始め、小学生では表千家流茶道を、中学生で偶々着付けを教わった師匠の「踊りをやらないう?」の一言で、日本舞踊を習い始めました。小学生の頃から京都の伝統工芸大学に行きたくて、芸術緑丘高校を志望。日本画を専攻しデッサン、油絵、デザイン、彫刻などを学びました。京都への道を辿る中の一つ心残りがありました。日本舞踊家としての道は、お

入試まで約半年、入試の情報が無いまま手探り状態での出発でした。入試が一次試験から始まり三次試験まである事を知り、更には最終試験が難関の楽典という音楽理論とのことでした。

私の在籍する日本舞踊専攻は、音楽学部邦楽科の中にある、楽典が音楽学部共通の試験課題となっていました。多くの藝大受験生は、幼少からピアノ等で音感を養い五線譜に触れて楽典の力を自然と身につけていくそうです。

いざ先生を捜して楽典の勉強をすることになりましたが、幸運にも芸術緑丘高校音楽科に楽典で藝大合格者を指導／輩出された先生がおられ、即入門、地獄の入試対策が始まりました。一日置きに先生のお宅でレッス

ンを受け、大量の過去問と首引きで寝食も惜しみ、ご指導の甲斐あって晴れて藝大の門をくぐる事が出来ました。

大学では、日舞はもとより、長唄、三味線、清元、常磐津、能、狂言、太鼓、鼓、箏、下座音楽など、日本舞踊に関わるものは全て学びます。苦しい修行の中にも、狂言を野村萬斎先生に教えていただいたことが有難く良い思い出となりました。

藝大一年の3月に東京新聞社主催の全国舞踊コンクールに出場、全国2位となり私の舞踊家人生が動き始めました。大学二年では、国立大劇場での推薦名流舞踊大会で長唄、歌舞伎の名曲「助六」を踊り、また、花柳流師範試験合格、明治座での誠雅会出演等、沢山の劇場で踊る機会をいただき飛躍の年となりました。

話しは尽きませんが、伝統ある和 cultura に触れる毎日を大変有難く過ごさせていだいております。死ぬまでが藝の修行と言われますが、まさにその通りで、時代と共に変わりゆくものの、守らなければならぬものが同時にあると感じております。まだまだ勉強中の身ですが、伝統文化は皆様のお力添えが不可欠です。是非とも竹田の皆様にもご支援の程宜しくお願いいたします。

副会長 田部(昭42年卒) 編集

第5回 図書寄贈リスト

図書名	著者	出版社	推薦者	卒業年次
凍	沢木耕太郎	新潮社	松良修二	S34卒
流	東山彰良	講談社文庫		
戦国日本と大航海時代	平川 新	中公新書		
トリエステの坂道	須賀敦子	白水社	衛藤 淳	S52卒
一死、大罪を謝す 陸軍大臣阿南惟幾	角田房子	ちくま文庫		
歴史を哲学する 七日間の集中講義	野家啓一	岩波書店		
緑の色鉛筆	串田孫一	平凡社		
「ない仕事」の作り方	みうらじゅん	文芸春秋	今井昭彦	S54卒
なぜ世界は存在しないのか	マルクス・ガブリエル	講談社選書メチエ		
定本 映画術 ヒッチコック・トリュフォー	フランソワ・トリュフォー、アルフレッド・ヒッチコック	晶文社		
超短編小説70 Sudden Fiction	ロバート・シャパー、ジェームズ・トーマス	文春文庫		
問題解決大全	読書猿	フォレスト出版	後藤章仁	S52卒
ホモ・デウス（上下）	ユヴァル・ハラリ	河出書房新社		
未来の年表 人口減少日本でこれから起きること	河合雅司	講談社現代新書		
極上の孤独	下重暁子	幻冬舎新書		
学校の「当たり前」をやめた。 生徒も教師も変わる！公立 名門中学校の改革	工藤雄一 （千代田区立麹町 中学校長）	時事通信社		
100年後の仕事図鑑	堀江貴文、 落合陽一	SBクリエイティブ(株)		
サービスが伝説になる時	ベッツィ・サンダー ス	ダイヤモンド社		
アマゾンが描く2022年の 世界	田中道昭	PHPビジネス新書		

大志文庫

ambitious library

100点目の寄贈を目指して
推薦募集中！

2015年に始まった母校への図書寄贈が4年を経過し、寄贈した図書数も75点になりました。現在第5回目の推薦を受け付けております。今回25点を寄贈できれば100点となります。地道な活動ですが、大事な母校と後輩たちを現実的に支援することにつながります。皆さまからのご推薦をお待ちしております。

お願い

- ◆ご推薦方法は下記の連絡先にどのような形でもけっこうです。ご連絡ください。
- ◆ご推薦いただいたものは、いったん、学校サイドの同窓会担当の教諭にリストとしてお送りし、内容に問題がないかどうかをチェックしていただきます。（図書館は教育現場ですので、その理念にそぐわないと判断されることもあります。ご理解をお願いします。）

推薦連絡先

本ページ最下段の本誌『臥牛』編集担当あてに電話FAX、メール、郵送等、どのような形でけっこうです。ご一報ください。

訃報

慎んでお知らせ申し上げます。
からご冥福をお祈りいたします。

物故者御芳名 ※順不同

板井洋一郎様（昭33年卒）

平成31年3月21日没

中村 政道様（昭24年卒）

平成26年9月28日没

阿南 惟正様（昭26年卒）

平成31年3月3日没

三好 成彦様（昭39年卒）

平成28年3月1日没

小代 好枝様（昭32年卒）

平成30年3月18日没

小野伊智子様（女学・昭10年卒）
（旧姓…佐伯）

平成31年1月10日没

那須 隆澄様（昭20年後卒）

平成29年3月23日没

牧野 克己様（昭25年卒）

平成26年6月1日没

渡辺 龍雄様（昭20年前卒）

平成24年4月30日没

小野 董様（昭20年前卒）

平成30年10月1日没

佐藤 朝生様（昭33年卒）

平成31年2月1日没

武内 英則様（昭34年卒）

令和元年8月7日没

※事務局へ連絡をいただいた方々
を掲載させていただきました。

編集後記

今年ラグビーワールドカップが開催され、日本代表の活躍もあり大いに盛り上がりました。しかし、まさにその同じ時に母校ではラグビー部の休部が決まったという残念なニュースが届きました。3年生部員が一人だけで、この部員さんが卒業後は部員なしになることが現実になったとのこと。72年の歴史を誇る竹田高校ラグビー部の休部は新聞の記事にもなって波紋を呼んでいるようです。（毎日新聞10月24日付）

休部は残念極まりないことではありますが、むしろ、1名でも頑張り続けたこの3年生部員

を讀みたいと思います。試合では他校との合同チームの一員として参加されていたそうです。

同級会・クラス会情報をお寄せください

本誌では同級会やクラス会を紹介しています。写真だけでも掲載しますので、少人数の集まりでもけっこうです。左記連絡先までご一報ください。お待ちしております。

連絡先

〒181-0003
東京都三鷹市北野2-3-22
（広報委員長）衛藤 淳 宛
TEL 090-9159-7231
FAX 0422-43-7762

mail to : etoj@hotmail.com